

【効果事例】平成29年台風18号での排水ポンプ車による排水作業～排水・設置訓練を活かして～

- 肱川流域は平成29年9月17日に、台風18号に伴う豪雨により大きな出水に見舞われ、肱川橋上流域平均総雨量で157mm（時間最大雨量27mm）を記録し、大洲第二水位観測所（肱川橋地点）では避難判断水位4.80m を超え、最高水位は5.24mに達しました。
- この台風18号出水による河川の水位上昇に伴い内水氾濫等が発生したことから、浸水被害を軽減するため肱川本川では春賀地区、阿蔵地区、支川矢落川では東大洲地区、新谷地区で排水ポンプ車による排水作業を実施しました。この排水作業においては、水防災意識社会再構築ビジョンの取組として実施した排水ポンプ車等の訓練や排水計画検討を活かして、排水ポンプ車の排水作業を確実に行いました。

排水ポンプ車等による訓練の実施

平成29年6月、洪水による排水ポンプ車緊急
出動時の迅速な排水ポンプの設置と運転操
作の習熟を目的として、大洲河川国道事務
所管内の肱川7箇所において排水ポンプ車等
の訓練を実施しました。



排水ポンプ車等による排水作業状況

肱川本川及び矢落川の4箇所に排水ポンプ車5台、夜間作業及び監視体制を強化するため照明車及び照明装置を稼働させました。東大洲では、都谷川排水樋門付近において排水作業を行った2台の排水ポンプ車により、約84,000m³の排水を行うことで浸水被害が軽減しました。

